

アプローチカリキュラムの自園化の手順

愛泉こども園

1. 作成メンバー

園長、副園長、主任、5歳児担任

2. 作成手順

- ①園内研修によって新潟市共通アプローチカリキュラムの理解。
- ②長期指導案（期案）を用いて「新潟市の重点」を視点に見直し、3色に分ける。
- ③週に1回記録するドキュメンテーションを新潟市の重点、「3つの経験してほしい重点内容」を視点にして記録し、話し合う事でアプローチ期に身に付けさせたい力が育まれるような遊びや生活が展開されているかを確認する。
- ④本園の幼児の実態や課題について協議し、課題を明らかにする。そして、その課題を克服するために、どのような活動を経験させていくのか、どのような活動で課題を乗り越えさせるのかを考える。
- ⑤ 5歳児の担任が主な活動を考えながら、自園の子ども達の課題や自園の特色を踏まえアプローチカリキュラムを自園化

3. 工夫した点

- アプローチ期に経験してほしい重点に示されている子どもの姿が表れたと思われる事例を集めた教育過程を作成し、アプローチ期に育てたい姿に繋がるキーワードを検討

アプローチカリキュラムの活用方法 ～作って終わりにしないために～

1. アプローチ期における子どもの育ちの検証

●検証の方法（新たに検討する機会を設けるのではなく、自園で行われている日常の園内研修に取り入れる。）

- ・ドキュメンテーション（事例）の活用
- ・ビデオカンファレンスによる保育実践の振り返り

検証方法1 ドキュメンテーションの活用

期ごとに行われる期案検討会において、4、5歳児のクラス担任で年長組のドキュメンテーション（事例）を話し合い、接続期に身に付けさせたい力が育まれるような遊びや生活が展開されているかを確認。自園の幼児の実態から課題を捉え直し、課題が克服できるような遊びや生活が展開できるよう期案を修正していく。

検証方法2 ビデオカンファレンス

3学期の全学年合同での園内研修にてビデオカンファレンスを行い、幼児期の終わりまでに育ててほしい姿や関わる力の育ちを視点にして検討

検証の視点

- ・アプローチ期に身に付けさせたい力が育まれるような遊びや生活が展開されているか
- ・自園の幼児の課題が克服できるような遊びや生活が展開できているか